

## 話題

当院産科副部長 水沼慎人先生が、平成 30 年 6 月 9 日に開催された第 145 回東北連合産婦人科学会で若手奨励賞を受賞されましたのでご紹介いたします。

## 回転型強度変調放射線療法(VMAT)で CCRT を行った子宮頸癌の 2 症例

水沼 慎人

抄録:当院では 2017 年から強度変調放射線治療(IMRT)の一つである VMAT が導入された。当院で行った VMAT を用いて治療した子宮頸癌 2 例を報告する。

症例 1、76 歳で子宮頸部に 60×46 mm 大の腫瘍を認め、病理組織診では SCC であった。FIGO Stage II B(T2b,N1,M0)、CT で両側骨盤内リンパ節腫大及び傍大動脈リンパ節の転移が疑われた。腫瘍マーカーは SCC:58.2 であった。

CCRT として化学療法 : NDP 40 mg ×5 回と放射線療法 : WP+PALN 46 Gy/23 fr の後 VMAT による局所ブースト 22.5 Gy/10 fr、bid、加速照射にて加療した。

治療後 CR となり SCC は 0.8 まで下降した。

症例 2、32 歳で子宮頸部に 41×40 mm 大の腫瘍を認め、病理組織診で SCC であった。FIGO Stage II B(T2b,N1,M0)、CT で両側内腸骨リンパ節に転移が疑われた。腫瘍マーカーは SCC1.7 であった。

CCRT として化学療法 : NDP 50 mg ×2 回投与したところで薬剤性肝機能障害が出現し CDDP 75 mg×2 回に変更し、放射線療法 : WP 46 Gy/23 fr の VMAT による局所ブースト 22.5 Gy/10 fr、bid、加速照射にて加療した。

治療後 CR を得た。

近隣に遠隔操作式後充填法(RALS)が行える施設がない当院では、RALS の代わりに VMAT を使用し加療したところ、短期成績ながら良好な結果を得た。子宮頸癌における VMAT の治療報告は少なく、今後症例が増えるようなら更なる VMAT の治療効果の検討が望まれる。